News Release

2026 年 11 月 10 日
株式会社エクサウィザーズ
（コード番号：4259 東証グロース）
株式会社 Exa Frontier Edge

エクサウィザーズグループの Exa Frontier Edge、中国電力の水力発電計画業務システムにおいて AI 駆動開発による再構築を推進

～ AI が生成した仕様書をもとにクラウドネイティブな技術構成で検証システムを再構築し、約 2 カ月で現行システムとの動作一致を確認。現行システムの改善にも先行適用 ～

株式会社エクサウィザーズ（本社：東京都港区、代表取締役社長CEO：春田 真、以下エクサウィザーズ）のグループ会社である株式会社Exa Frontier Edge（本社：東京都港区、代表取締役：福田 政史、以下 Exa Frontier Edge）は、中国電力株式会社（以下、中国電力）の水力発電所の発電計画を策定するシステム（以下、水力発電計画業務システム）を対象に、AI駆動開発によるシステム再構築の事前検証を2026年9月より進めています。
本取り組みでは、Exa Frontier Edgeが提供する「Living Spec（リビングスペック）生成サービス」[*1]を活用しています。AIが既存システムのソースコードと関連資料を解析して仕様書を作成し、その仕様書をもとに、現行システムと同等の機能を持つ検証システムをクラウドネイティブ[*2]な新しい技術構成で再構築しました。これにより、特定の担当者の知見に依存することなく仕様を可視化でき、着手から約2カ月となる2026年10月末時点で、検証用の貯水池式水力発電所における計画策定テストケースで現行システムと動作が一致することを確認しました。
さらに、仕様書作成の過程で得られた知見を現行システムの保守・改善にも先行適用しており、システム刷新の完了を待たずに実業務への価値創出を実現しています。



☑ 背景と課題

長期にわたり稼働してきた業務システムでは、仕様書と実装の乖離が進み、属人化・ブラックボックス化が生じやすくなります。その結果、脆弱性対応やパッチ適用、監査対応などに多大な人手を要し、保守負担が増大する要因となっています。一方でシステムの刷新にあたっては、現行システムの機能・ロジックを正確に把握すること、そして再構築後のシステムが現行と同等に動作することをいかに担保できるかが極めて大きなハ

ードルとなります。とりわけ社会インフラを支える業務システムにおいては、より一層高い信頼性と慎重な移行判断が求められます。

Exa Frontier Edge は、現行システムの正確な把握という課題に対し、2026 年 8 月より「Living Spec 生成サービス」の提供を開始しました。COBOL や VB.NET など従来のプログラミング言語で構築された基幹・業務システムに対応し、AI による高精度な仕様書復元・作成を支援しています。

今回の中国電力との取り組みは、仕様書の作成にとどまらず、その仕様書を起点として AI がクラウドネイティブな構成で検証システムを再構築し、現行システムとの動作一致（現新一致）までを検証するものです。「仕様の可視化」と「互換性・動作の担保」というシステム刷新における 2 大課題に、AI 駆動開発によって一貫して対応しています。

☑ 本取り組みの概要

中国電力は将来のシステム刷新の選択肢を検討する一環として、AI 駆動開発の適用性の検証を進めており、Exa Frontier Edge は次の流れで支援しています。

＜検証の流れ＞

- **仕様書の作成：**現行システムのソースコードおよび設計資料を AI で解析し、AI 駆動開発のインプットとなる高精度な仕様書を生成。
- **検証システムの再構築：**生成された仕様書をもとに、現行システムと同等の機能を備えた検証システムを、AI を用いてクラウドネイティブな技術構成で構築。現行コードの単純移植ではなく、プログラミング言語の刷新、アーキテクチャの見直し、クラウド稼働を見据えたコンテナ化を仕様書起点で実施。
- **現新比較[*3]の実施：**同一の入力データを用いた自動テストを実施し、計算結果および帳票出力の一致を検証。2026 年 10 月末時点で、検証用に設定した全テストケースにおいて動作の一致を確認。

＜現行システムとの動作の一致を合格基準に＞

システム刷新において最も回避すべきリスクは、再構築後のシステムが意図せず従来と異なる挙動を示すことです。そのため、本取り組みでは、現行システムとの動作の一致を再構築した検証システムの合格基準としました。今回再構築した検証システムは、プログラミング言語やアーキテクチャ構成が現行と全く異なるにもかかわらず、同一データに対して現行と完全に同一の処理結果を返すことを実証しました。これにより、AI が作成した仕様書が現行システムの業務ロジックを的確に網羅・再現できていることが客観的に裏付けられました。

☑ 事前検証の過程で得られた成果

本取り組みの成果は、システムの全面刷新を待たずに現行運用の段階から出始めています。
仕様書の作成過程において、AI が例外処理やエッジケースまで網羅的に洗い出すことで、日常の運用業務では顕在化しにくかった潜在的な課題や改善点が明らかになりました。中国電力ではこれらの知見を活かし、現行システムの改修や保守品質の向上に先行して活用しています。

このように、仕様書作成プロセスそのものが現行システムの改善につながるため、リスクの高い全面一括刷新（ビッグバン移行）に踏み切る前段階から、現行システムを活用しながら安全かつ段階的に将来の刷新準備を進めることが可能になります。

▼「Living Spec 生成サービス」に関するお問い合わせはこちら
https://exawizards.com/efe/

☑ コメント

株式会社 Exa Frontier Edge 代表取締役 福田 政史

「従来のシステム刷新には長期の開発期間を要するだけでなく、『再構築後も従来どおり正常に動作するか』という互換性への懸念がつきまとい、これが刷新をためらう大きな要因となっていました。発電計画のように業務上重要なシステムほど、その不安は大きくなります。本取り組みでは、AI が作成した仕様書をもとに、ク

ラウドネイティブな新しい技術構成で検証システムを再構築し、着手からわずか約 2 カ月で、検証用の貯水池式水力発電所における計画策定テストケースで現行システムとの動作一致を確認いたしました。AI を活用すれば、品質と安全性を維持したまま、システムの刷新期間を大幅に圧縮できると考えています。また、仕様書を作成する過程で見出された知見が現行システムの改善に還元されていることも、非常に意義深い成果です。刷新の完了を待たずに即座に価値を創出するこのアプローチを、中国電力様とともにさらに進化させてまいります。」

☑ 今後の展開

Exa Frontier Edge は、本取り組みで得られた知見をもとに「Living Spec 生成サービス」を強化し、仕様書を土台とした保守の自動化やシステム刷新まで、段階的に支援してまいります。今後も「AI 駆動開発を、組織の力に。」を掲げ、AI ネイティブなサービスの開発・提供を通じて、企業のシステム開発・運用の変革に貢献してまいります。

なお、本件が 2027 年 3 月期業績に与える影響は軽微であります。

*1 「Living Spec 生成サービス」は、AI が既存システムのソースコードや関連資料を解析し、仕様書を作成するサービスです。Living Spec とは、ソースコードから復元し、実装の変更に追随して最新の状態を保ち続ける仕様書を指します。エクサウィザーズグループの Exa Frontier Edge、AI がソースコードを起点に仕様書を復元する「Living Spec（リビングスペック）生成サービス」を提供開始（2026 年 8 月 12 日付）

*2 クラウドネイティブ：クラウド環境での稼働を前提に設計・構築された技術構成

*3 現新比較：現行システムと新たに構築したシステムに同一のデータを与え、処理結果を比較して動作の一致を確認する手法

【中国電力 会社概要】

会社名　：中国電力株式会社
所在地　：広島県広島市中区小町 4-33
設立　　：1951 年 5 月 1 日
代表者　：代表取締役社長執行役員　中川 賢剛
事業内容：中国地方を中心に総合エネルギー事業を展開
URL　　：https://www.energia.co.jp/index.html

【Exa Frontier Edge 会社概要】

会社名　：株式会社 Exa Frontier Edge
所在地　：東京都港区芝浦 4 丁目 2−8 住友不動産ファーストビル 5 階
設立　　：2026 年 4 月
代表者　：代表取締役　福田 政史
事業内容：AI 駆動開発を活用したサービスの企画・開発・提供
URL　　：https://exawizards.com/efe/

【エクサウィザーズ 会社概要】

会社名　：株式会社エクサウィザーズ（証券コード 4259）
所在地　：東京都港区芝浦 4 丁目 2−8 住友不動産三田ファーストビル 5 階
設立　　：2016年2月
代表者　：代表取締役社長CEO　春田 真
事業内容：AIを利活用したサービス開発による産業革新と社会課題の解決
URL　　：https://exawizards.com/

<広報に関するお問い合わせ先>
株式会社エクサウィザーズ　広報　メール：publicrelations@exwzd.com